

かさおか

発行所
天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377
郵便番号714-0066
(0865)
電話 66-1311
FAX 66-1314



「神人楽」

立教174年
12月号

創立百二十周年記念祭執行

真柱様、奥様ご臨席のもと

— 全部内教会 一手一つに —



参拝者の唱和の中、勇んで陽気におつとめがつとめられた



お言葉を下さる真柱様

午前10時から真柱様のお手に合わせて礼拝し、祭典開始。大教会長様の祭文奏上ののち真柱様が参拝。引き続きお言葉があった。
あいさつに立たれた真柱様は、創立120周年を迎

大教会では11月30日、真柱様、奥様(随行、島村廣義・榊井幸治両先生)を迎え、創立120周年記念祭を執り行った。
大教会では記念祭に向け「初代の心にかえり信仰の喜びを深めよう 伝えよう 広げよう」を活動のスローガンとして○持ち場立場で日々作り○家族揃って教会参拝○一日一件にいがけ—を實踐項目として三年千日にわたり活動してきた。
当日は好天に恵まれアメリカ、ブラジルからの参拝者を含め2千308人(実行委員会発表)のよふぼく・信者が参集した。



参拝者にお礼を言われる
大教会長様

える意義、私たちのこれからの歩みかたなどについて諄々とお話し下された。
引き続き、参拝者の唱和する中、真柱様を芯に座りづとめがつとめられ、次いでてをどりが陽気に勇んで勤められた。
おつとめの後、大教会長様は真柱様に「教祖130年祭目指し、教会のおつとめ奉仕人の増員を図ろうという事で日々成人の歩みを進めさせて頂いています。その中、年祭と年祭の間にこの記念祭を迎えさせて頂き、記念祭はおつとめ奉仕人をご守護頂く理づくりの句と申し合わせ、初代の心にかえり信仰の喜びを深めよう 伝えよう 広げよう」の実践項目を掲げて今日迄つとめさせて頂きました。先程、賜りましたお言葉をしっかりと心にたえて今後、親神様、教祖はもとより初代会長様、歴代会長様、先人達にもお喜び頂けるようしっかりと親孝心のもとに、たすけ一条の上につとめさせ



教会長は結界内で参拝

て頂く覚悟でございます」とお礼申し上げた。
参拝者に向かっては記念祭に向けた三年千日の活動に対するお礼と共に「記念祭をつとめさせて頂いた喜びを明日からの成人の歩みにつなぎ、次の塚に向かっておつとめ奉仕人の増員をしっかりと、共々に心に定めて勇んでたすけ一条の道を歩ませて頂こう」と話された。
この後、真柱様、奥様、随行先生、来賓は神殿



ステージ一杯に繰り広げられたアトラクション

参拝場でおつとめ奉仕人、また部内教会会長と共に記念撮影をされた。
祭典時、部内教会長は教服で結界内で参拝。
祭典後は、中庭に設置されたステージで ○鏡割り(実行委員会) ○和太鼓演奏(有志) ○ハーモニカ演奏と踊り(いわき布) ○舞楽(雅鶯会) ○ペープサート(島根分) ○扇舞Ⅱ 詩吟と舞Ⅱ(錦ヶ原分) ○ジャズダンス(女子青年) ○大黒様の福撒

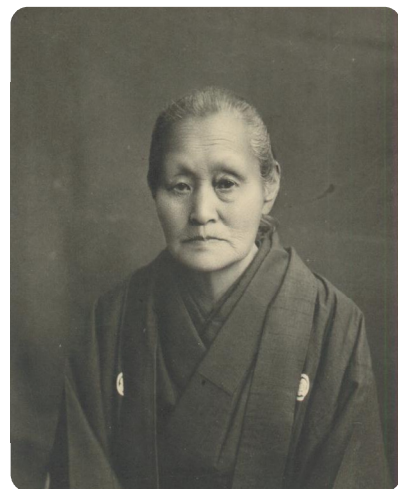
き(大恵山分)○管楽器演奏(恵陽分)○海外帰参者の紹介(海外部)○みんなで唱おう(全員)ーなどのアトラクション、豚汁の模擬店も行われ終日賑わった。

29日には東ブロック・西ブロック・福山・高屋・久松、30日には島根・上下・府中市の教会長が真柱様からお流れを頂いた。

また、29日夜には少年会笠岡むつみ鼓笛隊・同福山隊・同高屋隊・同島根隊がステージで合同演奏、30日祭典後には会長宅中庭で有志による和太鼓演奏を行い、真柱様、奥様をはじめ随行先生方にもご覧頂いた。

当日、来賓として、井筒梅夫芦津大教会長様、年子奥様、岡崎眞彦玉島大教会長様、ひさの奥様が参拝下された。

(真柱様お言葉、大教会長様の真柱様へのお礼全文は、創立120周年記念祭特別号に掲載予定)



初代会長・上原さと様

笠岡大教会が明治24年に設立のお許しを頂いてから、今年で120年の歳月が流れた。

遙か明治の頃、親神様の不思議なご守護を頂いた上原さと様が、親神様のご恩に報いるためには、一人でも多くの人に、この教えを知って下さってほしいという思いで、笠岡の郷を中心に近郷近在を人だすけに回られました。

こういふ所から、この笠岡の道は始まり、明治24年10月、上原さと様を初代会長に教会が設立された。

大教会本年心定め

- 初席者数 279人(78人)
 - よふぼく数 217人(51人)
 - 修養科修了者数 135人(13人)
 - 教人登録者数 114人(1人)
 - 参考) 教人資格講習会 (3人)
 - 教会長資格検定講習会 (5人)
- (括弧内は1月1日~11月30日)



温故知新

いきいきエピソード 10

浅野明先生の思い出話

大教会史の資料集成中、役員先生達に心に残るおたすけ談を御願いした事があった。しかし時は経っても一向に原稿は来ない、結局そのままになってしまった。半年程して、浅野明先生が緑色の封筒を私に差し出して「参考にでもなれば・・・」と言われた。何だか私も分からずに、「はい、有難う御座います」と受け取った。便箋五枚に細かい字で細々と何かが書いてある。読み始めて初めて先生のおたすけ談という事が分かった。有難かった。

明男先生は彌三郎先生の子供さんで、門脇一教先生の三歳違いの弟さんである。当初「晃」と命名頂かれていたが後に「明男」と改名された。島根に巡教で参拝されると二人でよく碁を打っておられたと或る役員さんの話である。名人戦ならぬ迷人戦であったという事である。ちなみに彌三郎先生には五男三女があり、上から

一教・明男・きぬえ・勇喜・信夫・昌夫・富恵・末子である。

ついでという訳ではないが、一教先生、彌三郎先生と紹介してきたので、ここに明男先生のその手記を転載させて頂く。「若い頃から、教祖は存命の理をもって働き下されている事は聞き覚えに知ってはいても、悲しいかな、凡夫の目には教祖が見えない。われわれの力では医者の手あまり救ける力はない、親神様、教祖がたすけ人の真実受け取ってお働き下さればこそ不思議という御守護下さるのである。でも救けると、ワシが救けたとうぬぼれる。」

以上が書き出しである。

昭和四年六月八日午後、信者のAさんが訪ねて来られた。「先生、家内が一両日うちが危険だから、知らず処へ知らせと医者注意で今朝岡山から帰って手配し、これから病院へ行く処ですが、先生、おたすけにご苦労下さいませんか」という挨拶。折角だがAさん話が違う。奥さんは神様に助けて貰うのだと信じていて岡山大学病院へ行かないというのに、あなたは笠岡の医者では病気の原因すら分らないので、岡大の安藤博士は神様より偉い先生だから安藤博士

に診て貰いに行こう・・・と連れて行き、そのまま入院させてしまった。入院して四十日近くなると、神様より偉い博士が診察してさえ病因が判明せず、その結果一、二日が危険だと宣告されたのだから、偉くない神様が行っても駄目ですよ。

するとAさんは「あれは岡大へ連れ出す方便でしたので、医者から手放されたら神様より頼るところはありません。申し訳ありません。どうぞ御願います。」

こういう返事でしたので、神様の方が偉いという事が分かれば行かして貰いましょうと、身支度して父(彌三郎氏)に挨拶して出かけようとしたら、それはご苦労さん。その病人を連れて帰らせて貰えよ。ハイと素直に返事をして家を出て教会へ行く途中、名医が死の宣告をした病人を、而も岡山から連れて帰れるものじゃない、これは教祖にご無理を願わねばならぬ。平素は神殿で教祖殿の方へ向いて遙拝するのに、その日はわざわざ教祖殿まで足を運んで、しみじみと「お伴さして頂きますから」とご苦労頂く御願いを出発した。

(以下次号)

(笠岡史料部長)

笠岡大教会 年間行事 予定表

部会 月	婦人会	青年会	少年会	学生会 学生担当委員会
1	28 創立の日			
2	3・4 委員・直轄委員部長研修会			21 学生層育成者講習会
3				3~9 学修 大学の部 28 春の学生おぢばがえり
4	19 婦人会本部第94回総会		30~1 鼓笛バンド講習会 1 おつとめまなび総会	
5	31 おつとめまなび総会		21 縦の伝道講習会	27 新入生歓迎会(おぢば)
6	23・24 こかん様に続く会	1~24 一ヶ月ひのきしん隊		
7				
8	19 女子青年の集い (おつとめまなび)	15・16 あらきとつりよう入門塾 2~9 全分会布教推進週間	22~24 キャンプ	9~15 学修 高校の部
9	23 委員部長後継者講習会			
10		27 本部青年会総会		輸 送 部 1月25~27 春季大祭参拝 4月17~19 教祖ご誕生祭参拝 7月26~4 こどもおぢばがえり 10月25~27 秋季大祭参拝
11		4 青年会笠岡分会総会		
12				教 養 掛 修養科修了講習会 2月28日~3月1日 5月28日~29日 8月28日~29日 11月28日~29日
備 考	◎例会日(毎月3日) ◎直轄委員部長連絡会(21日) ◎ひまわり会(1日) ◎女子青年例会(随時) ◎大教会掃除ひのきしん(毎月19日)	◎大教会ひのきしん 毎月19日 午前9:00~	◎教会おとまり会の実施	

立教175年(平成24年/2012年)

部会 月	全体行事	ひのきしん	布教部	海外部
1	4~18 直轄教会春季大祭参拝 20 年頭会議	11~20 直属ひのきしん特別隊 (島根) 25~27 春季大祭詰所受入		
2	2~15 部内巡教	16~28 本部食堂(西ブロック)	26~27 教会長講習会	
3	2~15 部内巡教 3 雅楽勉強会			広島・訪日外国人への 英文パンフレットでにをいかけ
4	未定 大教会長杯 親善ソフトボール大会	17~19 教祖ご誕生祭詰所受入	29 全教一斉ひのきしんデー	
5	4~18 直轄教会定期巡教	1~15 本部食堂(東ブロック)		
6	未定 別席ひのきしん団参			
7		16~31 本部食堂(福山ブロック)		
8	26~4 こどもおちばがえり	25~4 こどもおちばがえり詰所受入		6・7 英語講習会
9			1~30 布教推進強調月間 28~30 全教一斉にをいかけデー	
10	4~18 直轄教会秋季大祭参拝	1~15 本部食堂(高屋ブロック) 25~27 秋季大祭詰所受入		
11				観光地にて 外国語パンフレット配布 21 海外布教推進講習会 (月次祭に合わせて)
12	20 心定め提出 22 年末大掃除	1~20 直属ひのきしん特別隊 (東ブロック) 27 詰所餅搗		
備考	◎常詰会議 毎月29日 午前10:00 ◎役員会議 毎月29日 午後 1:00 ◎直轄教会長の集い 毎月20日 午後 2:00 ●雅楽会練習 毎月次祭前日夕勤後 舞楽練習 随 時	註：ブロックの区分けは 東：岡山県以东の直轄教会とその部内教会 西：広島県以西の直轄教会とその部内教会 上府：上下、府中市	◎おかえり講話 1月25日、4月17日、 10月25日 いずれも午後 7:00	◎月例勉強会(毎月21日) ◎『英文かさおか』発行 ◎海外よふぼく月報

◎役員並びに直轄教会長会議：毎月29日 午後 2:00、2月は末日、4・7・9・12月は20日(直轄教会長の集いに替えて行なう)

修養科終了生の声



心の持ち方に気を付けたい

仲條分教会 重政 理治

修養科に志願したけれど、理由はないし、目標もなくスタートしました。今までに朝が、にがてで起きることができませんでした。ほこりの心づかいをしているから直した方がいいと言われてましたが、そんな心づかいはしていないと思っていました。修養科生活の中で、ほこりの心づかいに気付けて使わないように心がけていました。朝は起きられることもありませんでしたが、自分でも起きれるようになって、有難い、うれしいと思うようになりました。

それから一ヶ月半が経った十月半から一ヶ月間、交通誘導のひのきしんにあたりました。交通誘導は登校時間が早く、朝食後のひのきしんができません。朝早く起きてひのきしんをしようと考えていました。しかし、朝早く起きることができず、逆に寝坊するようになりました。それからは、感謝の心をもてず、不足ばかりするようになり、

ほこりの心づかいはもうようになりました。十月の終わり頃からは朝の定時ひのきしんもなくなり、心も荒れて気の抜けた生活を送っていました。ある日、自分に注意して下さった方のおかげで、再び、感謝の心をもつこと、ほこりの心づかいは使わないことに気付けました。ここからは心の持ち方も変わり、前向きになりました。最後の方は朝も起きれるようになり、最初の頃の心の持ち方にも戻ることができ、荒れた心も治まり、楽しく過ごすことができました。

この三ヶ月で、感謝の心をもつこと、ほこりの心づかいに気付けたことはとても良かったです。常に心において日々をすごさないとすぐに不足の心がでてしまうから、心の持ち方に気を付けていきたいです。良い経験をさせてもらえた修養科でした。

修養科を終えて

瑞雲分教会 西村 剛

今回、修養科85期3組10番で、お地場にお引き寄せ頂き、お仕込み頂いた事は、忘れる事の出来ない貴重な経験をさせて頂きました。

修養科に行かせて頂くにあたり、私は、人生の岐路に立たされていました。

それは、今年の6月に、5年間の生活を離婚と

いう形で終わったことです。自教会に帰って、まず思ったのが、結婚生活していた間、自分本位な考えで両親や兄弟に迷惑かけて来たこと、そしてあまりにも教会から離れすぎてしまって、何も見えなくなっていたと感じました。

そんなときに会長様から「修養科に行ってみないか？」と言われ、かなりの時間迷いましたが、全ての都合を捨てて行くことにしました。

最初は、初めての事ばかりでとまどい、言われている事をこなすので精一杯でした。

しかし、自分の周りを見ると、自分よりもっと大変な事情や、身上があるにもかかわらず、皆が「ひのきしん」を、頑張って居られるし「手おどり」も、一生懸命に勤め、覚えて行かれる姿を見て、今までの自分は、与えられた事しか出来なかったし、そんな自分が情けなく思え、もっとしっかりと頑張らなと駄目だと思ひ、ちょっとでも空いた時間があれば、ひのきしんや手踊りの練習をするように心掛けて、そう成って行きました。

でも、修養科に入って、しばらくは、今迄の事を深く考え込むことが多く、気持ちが沈み込む事が続いています。そんな時、修養科のクラスの人に「大丈夫かい？」と声を掛けて頂いたり、朝礼前に1人で神殿へ参拝に行ってしまう、時間ギリギリに間に合った時なども、何人かの人が「なかなか来ないから休みかと思った」と心配して下

さったのです。その時、すごく有難いと思いましたし、そう云う周囲に対する心遣いも忘れていた事に気付かされました。そして、教室の仲間の皆さん方の話が、すごく自分にとってプラスになると感じました。

詰所での教養掛の先生方にも、親身の御指導を頂きましたし、修養科の先生はもちろん、同じクラスの仲間の感話や、練りあいで「人生経験」話しも勉強になりました。

修養科の3か月で、来る前より姿は16kg減少しましたが、心は少しだけ変わったかな?と思います。

物事の見方方向は一つではなく、他方な視点から見て考えて、それをどう心に納めていくかという事。良い事も悪い事も全てが、親神様・教祖が映して下さる事であり、これからの自分の人生に、必ずプラスになるということを学びました。

そして、人様に対する心遣い、思いやりを大切に、親神様に、もたれて行けば、必ずご守護を戴ける。と云う事を胸に、これからの人生を歩んでいきたいと思えます。

この度の修養科に、大教会長様の御心尽くしに、修養科に行く為に支えて頂いた瑞雲分教会長様と、信者様、そしてお世話いただいた教養の先生方、一緒に3ヶ月間!頑張った枝廣さん、重政くん。大変お世話になりました!本当に有難う御座いました。



おさづけの取り次ぎを胸に

東福山分教会 枝廣 久美

私は修養科に入るまで、ほとんどおさづけを取り次いでいませんでした。以前からの友人が修養科の同期にいて、一か月目のある日修養科棟の吹き抜けで地面に正座しておさづけを取り次いでおり、その姿から「この人に助かってほしい」という思いがひしひしと伝わってきて、鳥肌が立ちました。その数日後中間調査で「私もあの子の様に、身上の人に会ったときにすぐおさづけを取り次ぎせてもらえるように勇気を出したい」と作文を書きました。その次の授業が教祖伝だったので、授業中友達がずっと咳をしていて、先生が「あん

た大丈夫か? 授業が終わったら誰かにおさづけを取り次いでもらいなさい」と仰って、私は「これはもしかして神様がチャンスを与えてくださったんじゃないか!」と思い、授業後勇気を出して声を掛け、取り次ぎせてもらうことができました。その後も何度も取り次ぎせて頂く機会があり、私の心が変われば神様もそれに合わせて動いて下さると感じました。

修了する何日前、私は修養科中におさづけの理を拝戴された八十歳の女性が、初めておさづけを取り次ぐときに、横で説明しながら沿い願いさせて頂きましたが、耳も遠かったため分からず、何度も間違えながら、でも必死に「なむ天理王命」と唱えながら、一生懸命に念を込めて取り次ぐ様子を見て、最初は「この人が間違えないように」と思っていました。が、だんだんと「なんとか神様に働いてもらいたい」と気付けば涙を流してお願いしていました。授業でも「おさづけは取り次ぐ者の心を神様が受け取って下さる」と聞きました。が、私は修養科で人のために本気で祈ることを体で感じる事ができました。

今までも自分が気付かないだけで、神様はちゃんと準備してくれていて、もっと周りにおさづけを取り次ぎせてもらえる方がいたと思います。これからは、神様からのメッセージを逃さず、行動できるように過ごしたいと思います。


 こころの詩

▼東悠分教会前会長夫人 田林 美智子 さんより寄稿

懐かしや小春日和の障子ごし

和紙暖かくおかき食^はみし日

お鏡餅のおさがりでしょうか。舊^{きゅう}長さんはよくお居間の火鉢でおかきを煎って居られました。

香ばしい美味しい薫りが懐かしく甦^{よみがえ}ってまいります。

遥かなる日祖母につれられて伺っていた頃の想い出です。

(当時は初代様のことを「舊長さんく」と) お呼びして
いました。

▼『天理時報』12月4日号、「時報歌壇」より転載

▽笠岡に繋がる教友の方が選ばれ掲載されていきましたので転載させていただきます。おめでとうございます。

芦品分教会 教人 金谷 眞佐代 さん

懇親会ぎんなん落ちるおぢばにて

▼表紙の書

天場山分教会 役員 野津 正樹 さん

教会おとまり会の報告

▼笠晴隊

実施日	平成23年7月10日・11日
参加者数	少年会員2人 育成会員2人 合計4人
プログラム	10日 16:00 集 合。
	(土) 17:50 夕 食。
	18:30 夕づとめ。
	19:20 入 浴。

十一月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます

親神天理王命の御前に 会長上原理一慎んで申し上げます

親神様の子供かわい一条の親心溢れる御守護を頂戴し 日々は結構に恙なく生活くわさせて頂いております中に 寒暖を繰り返すうちいつしか季節は紅葉から落葉に変わりすっかりと冬景色に様替わりして 何かもの悲しさも感じるようになってまいりましたが 笠岡に於きましては目前にせまった創立百二十周年記念祭の準備に連日大勢の人達が集まり 記念祭に向けた日々の理作りの総仕上げとばかりに賑やかな姿をお見せ頂いております 加えて記念祭目指しての心定め完遂の上に於いても自由の御守護をお見せ頂き 喜び一杯に日々の御用をつとめさせて頂いております事は誠に有難く勿体ない極みでございます 私達は日々喜び感謝の心のまま御恩報じを思い念じて朝夕にお礼申し上げます たすけ一条の御用の上に勤め励ませて頂いております

その中にも今日の吉日は十一月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕人一同 今日の日を楽しみに寄り集いました道の子供達と相共に明るく陽気に勇んで坐りづとめてをどりをつとめさせて頂きます

御前には声高らかにお歌を唱和し日頃の御高恩に改めて御礼申し上げる皆の真実の状を御覧下さいまして 何卒親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

さて記念祭まであと十日足らずとなり 準備も心定め完遂もと大急ぎで進めさせて頂いておりますが その中にも心は常に行事のための歩みではなくたすけ一条の歩みの一環であることを意識しつつ勤めさせて頂きます 世上の価値観は共通から個別へと変わり人と人との繋がりが希薄になり人としての本当の喜びが失われつつあります そんな中だからこそ私達よふぼくが親に一つ心を結び一列兄弟としてたすけ合い 共に喜び共に楽しむ陽気づくめの世の状を築き上げていかなければなりません 初代の心に立ち返る句に改めて日頃の心遣いを思案し 自分一人の喜び信仰から親兄弟姉妹全ての喜び信仰となるよう 身近な所から精一杯にたすけ一条の上に邁進させて頂く覚悟でございます

何卒親神様には 皆のそうした真実の心定めをお受け取り下さいまして 万たすけの上に尚も自由の御守護を賜り 一人でも多くの子供が人としての喜びは一人では味わえない事に気付きそして救い合いの輪が広がって お望み下さる陽気づくめの世の状に一日も早く立て替わりますようお導きの程を一同と共に慎んでお願い申し上げます

・原・稿・募・集・

内 容

①小随筆 ②教会・布教所の独自の活動の紹介 ③俳句・和歌・川柳 ④教会行事開催後の報告記事 等々

字 数

1000字前後(800字~1200字) 題名・所属教会名・氏名を明記して下さい。俳句等は一句からでも結構です。

寄 稿 先

下記、大教会内『かさおか』編集掛宛ドシドシご寄稿下さい。

郵 便：〒714-0066 岡山県笠岡市用之江377

FAX：0865-66-1314

メール：tenkasa@yahoo.co.jp

尚、原稿はお返し致しませんので、予めご了承下さい。



大教会だより

◎第八四五期修養科

自 立教174年9月1日
至 立教174年11月27日

*教 養 掛

三ヶ月間 谷内 伸 自
(大教会役員)

一ヶ月目 香 取 雅 人
(輝美濃分教会長)

二ヶ月目 下 田 誠 輝
(川島郷分教会長)

三ヶ月目 山 田 睦 浩
(甲井分教会長)

*修 了 者

仲 條 重 政 理 治

瑞 雲 西 村 剛

東福山 枝 廣 久 美

◎教人資格講習会修了者

立教174年12月11日終講

多古浦 小澤 操

◎三日講習会受講者

(立教174年4月以降)

①Ⅱ第1講、③Ⅱ修了

6月 輝美濃 谷内 孝 夫 ①

10月 芦加茂 小川 裕 子 ①

芦加茂 小川 恵 子 ①

11月 輝美濃 谷内 文 義 ③

輝美濃 大 林 正 子 ①

12月 坪 生 阿 部 通 子 ①

香地華 渡 邊 美 恵 子 ①

高 屋 重 政 康 子 ①



大教会創立120周年記念祭を部内教会長として、また記録写真係としてつとめさせて頂いた。

創立90周年、110周年、120周年と記録写真を撮らせて頂いた。

時は経ち、フィルムカメラからデジタルカメラへと機材も大きく変化しました。大教会の暗室に籠って白黒フィルムを現像した90周年。プリント

会社にカラーフィルム現像を依頼した110周年。記録カードをパソコンで処理、保管する120周年。

が、いくら形は変わっていても、時々の記録を正確に残しておこうという気持ちに変わりはない。残念ながら、流れゆく月日には勝てず、氣力に体力が伴わないのが現実だ。

真柱様、奥様と部内教会長との記念写真は、撮影機材をはじめ準備時間、場所、人数、配置など考えて私には到底無理と当初、断念した。しかし、10年に一度のことであり、これまでになかったこと。スタッフと何回も現場に足を運びデータを取った。

不安を抱えての当日。教会長さん達は限られた時間内に、係の指示に従って手際良く設営の準備、そして肅粛と整列された。十分な出来ではなかったが、正に奇跡の一枚だ。

今回の真柱様の御揮毫は「一手一つ」。記念写真撮影を通し、笠岡大教会につながる教会長さん達に、脈々と流れる底力を垣間見た感じがした。

(よ)